



虫たちの声を聴きながら体験活動を

“実を食べにおいで”とアピールするガマズミ



どこか懐かしいアケビ（左上）や、ヤマブドウ（右上）
ゲンショウコ（下）も咲き乱れ、野山はにぎやか

秋の七塚原高原は、四季の内一番心穏やかなときです。一歩草原に足を踏み入れると、

草原から森に一歩足を踏み入れると、なんだか厳しい雰囲気が出てきます。「オイ、大きな葉は早く落ちるよ、もう冬芽の準備ができたからおまえたちは邪魔なんだよ」とホオノキがいつているかと思えば、オイ、落ちるのはまだ早いよ、しっかり働いてくれなきゃ実が育たないからな」とクヌギやコナラがハツバをかけている声が聞こえる。「そんなことをいつたって

私たちが視野から消えてしまっている秋の草原の演出者たちです。草原から森に一歩足を踏み入れると、なんだか厳しい雰囲気が漂ってきます。「オイ、大きな葉は早く落ちるよ、もう冬芽の準備ができたからおまえたちは邪魔なんだよ」とホオノキがいつているかと思えば、オイ、落ちるのはまだ早いよ、しっかり働いてくれなきゃ実が育たないからな」とクヌギやコナラがハツバをかけている声が聞こえる。「そんなことをいつたって

花がしおれた後には地表に細長い葉を放射状に出しますが、翌春になると葉は枯れてしまいい、秋が近づくと地表には何も生えてきません。つまり、開花期には葉がなく、葉があるときは花がない、という訳

虫たちが交わす話し声が聞こえます。リンリン、みんな、もう子どもを生みつけたかい、寒くなる前に店じまいしようぜ、リンリン。風に吹かれながらしゃべっている花の姿も聞こえます。チリンチリン、チヨウチヨウさん、ハチさんもう少しつき合ってよ、昼間の暖かいときだけでいいからさ、チリンチリン。というツリガネニンジン、ワツショイ、ワツショイ、ワツショイ、チヨウチヨウさん、ハチさん、そんなにツツポのヒヨドリバナばかり相手にしないで、かわいい私の花にも来てよ、ワツショイ、ワツショイ、というゲンノシヨウコの声。



九月の中ごろ、つまり秋の彼岸のころに咲くヒガンバナ。曼珠沙華（まんじゅしゃげ）とも呼ばれ、誰もが馴染み深いその姿は、里の秋を彩る代表的な花の一つと言えるでしょう。生長の仕方は独特で、

死にいたることもあるようです。日本には、大陸からの稲作の伝来の際に、土と共に球根が混入してきて広まったといわれていますが、モグラなどの土に穴を掘る小動物を避けるためにあえて持ち込み、畦

「死」のイメージと隣り合わせの花 有毒成分は、一方で生薬にも

死にいたることもあるようです。日本には、大陸からの稲作の伝来の際に、土と共に球根が混入してきて広まったといわれていますが、モグラなどの土に穴を掘る小動物を避けるためにあえて持ち込み、畦

その有毒成分を利用して、モグラやネズミから水田を守るという用途と、以前は火葬ではなく土葬が多かったため、虫除けおよび死体が動物によって掘り荒らされるのを防ぐために植えられてきたからで



墓地を囲むように群生（左）。花単体をみても面白い（上）



「自然は、沈黙した。うす気味悪い。鳥たちは、どこへ行ってしまったのか。みんな不思議に思い、不吉な予感におびえた。（中略）春が来たが、沈黙の春だった。」

『沈黙の春』が出版される前、アメリカでブユの駆除のために湖にまかれた殺虫剤が、

ブリが大量に死ぬということが起こりました。ブユを殺すのに十分な薄さで広く撒かれたはずの殺虫剤が、プランクトンにとりこまれ、それを食

このことから生き物を守るということを考えて、種類の生き物を守るために、その生き物に直接影響のない生き物が、思わぬところで影響を及ぼすことがあるということも考慮に入れなければなりません。

食う食われる 思わぬところで影響 化学物質が濃縮されていく



トンボの仲間を捕らえたアオメアブ

『沈黙の春』が出版される前、アメリカでブユの駆除のために湖にまかれた殺虫剤が、

ブリが大量に死ぬということが起こりました。ブユを殺すのに十分な薄さで広く撒かれたはずの殺虫剤が、プランクトンにとりこまれ、それを食

このことから生き物を守るということを考えて、種類の生き物を守るために、その生き物に直接影響のない生き物が、思わぬところで影響を及ぼすことがあるということも考慮に入れなければなりません。

生物調査事業

さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るための生物調査事業を行っています。

<p>地域の自然を知る 陸上生物・水生生物・海域生物調査</p>	<p>大切な生き物を守る 野生動植物保全対策調査</p>	<p>失われた自然を取り戻す 自然再生計画立案・実施</p>	<p>実施の枠組み 住民や行政・事業者の自然との共生の取組みを生物保全の専門家としてお手伝いします。</p> <p>住民 ← 自然との共生 → 行政・事業</p> <p>(財) 広島県環境保健協会</p> <p>問い合わせ： 財団法人広島県環境保健協会 企画開発センター業務開発課 / 生物調査課 電話：082-293-1517 (受付時) FAX：082-293-8915</p>
---	---	---	--

理事長 西村清巳